

勝林寺寺報

命のつながりを思う

この地球上には六十億の人間が住んでいるとあります。何という多くのいのちでしようか。しかも生命をもつているものは人間だけではありません。この地球上には無数の生物が住んでいます。あらためていま人間の生命をあたえられていることについて、大きな不思議さと、深い感謝を覚えずにはおれません。仏教が、人生間に生まれたことの因縁の尊さを語り、その生命の大切さを教えることに、深い共感を覚えることです。

平安時代の念仏者である源信和尚（げんしんかしょう）の『横川法語』に「まづ三悪道をはなれて人間に生まるること、おぼきなるよろこびなり。身はいやしくとも畜生におとらんや。家はまづしくとも餓鬼にまさるべし。心におもふことかなはずとも地獄の苦しみにくらぶからず。世の住み憂きはいとふたよりなり。このゆゑに人間に生まれたることをよろこぶべし」とおしゃれられています。

私の生命が誕生するについては、父と母の生命があればこそであります。その両親にはそれぞれ二人ずつの両親（祖父・祖母）がいるから、二代さかのぼると四人の生命になります。このようにして十代前にさかのぼると、一、〇二四人の生命となります。そして二十代前にさかのぼると一〇四万八、五七六人の生命となります。そしてまた、三十代前には、一〇億七千三百七十四万八百二十四人の生命となります。三十代といえば、たかだか七、八百年昔のことです。この私の生命も鎌倉時代にまでさかのぼると、現在の日本人の人口の一〇倍もの多くの祖先の命に結ばれています。まして人類が誕生したのは五百万年前のことであります。このことを思えば人間の生命はすべてどこかで通底し、みんな大きな生命の縁に結ばれています。それなのに私たちは、またしては

この地球上には六十億の人間が住んでいるとあります。何という多くのいのちでしようか。しかも生命をもつているものは人間だけではありません。この地球上には無数の生物が住んでいます。あらためていま人間の生命をあたえられていることについて、大きな不思議さと、深い感謝を覚えずにはおれません。仏教が、人生間に生まれたことの因縁の尊さを語り、その生

命の大切さを教えることに、深い共感を覚えることです。

平安時代の念仏者である源信和尚（げんしんかしょう）の『横川法語』に「まづ三悪道をはなれて人間に生まるること、おぼきなるよろこびなり。身はいやしくとも畜生におとらんや。家はまづしくとも餓鬼にまさるべし。心におもふことかなはずとも地獄の苦しみにくらぶからず。世の住み憂きはいとふたよりなり。このゆゑに人間に生まれたることをよろこぶべし」とおしゃれられています。

私の生命が誕生するについては、父と母の生

お互いが自分を主張して、他人と争い、他人を傷つけているのではありますか。きびしく私たちのこころのせまさを省みるべきであります。よう。

(信楽峻暦遺稿法語集より引用)

勝林寺 年間行事予定

去る一月一六日に行われました代議員会にて、今年度の行事予定が承認されましたのでお知らせします。ご予定ください。

二月 六日	仏壯総会
十一日	仏婦評議員会
三月二一日	仏婦総会
(振替休日)	春彼岸会
四月 九日	合同役員会
五月 五日	観桜会グランドゴルフ大会
五月 五日	花祭り(出石組)
六月十二日	宗祖降誕会
六月十二日	三十一日 出石組念佛奉仕団
七月八・九日	永代經法要
七月八・九日	出石組念佛連盟總会
八月 八日	戦没者追悼法要
八月 八日	十八・十九日 納骨研修旅行
九月二二日	秋彼岸会
九月二二日	合同役員会
十月二二日 敬老報恩講	
十一月二二・二三日 報恩講法要	
十二月四・五日 合同役員会	
二七日 餅つき	
三一日 除夜会	

改選後は、左記の皆様にお世話になります。

総代会長 大石 正和様
総代玉井 克弥様
総代湯口 博文様
総代田中 嘉信様

二四日 (水) 出石組 総代会 合同三役会
兵庫教区 護持口数調整委員会

二六日 (金) みのりを聞く会
二七日 (土) 西池入海 卒業式

二八日 (日) 湯口真由美宅 三回忌
斎藤保宅 三回忌

二九日 (月) 出石組 総代会 合同三役会
兵庫教区 護持口数調整委員会

二九日 (月) みのりを聞く会
二九日 (月) 斎藤保宅 三回忌

二九日 (月) 出石組 総代会 合同三役会
兵庫教区 護持口数調整委員会

二九日 (月) みのりを聞く会
二九日 (月) 斎藤保宅 三回忌

二九日 (月) 出石組 総代会 合同三役会
兵庫教区 護持口数調整委員会

二九日 (月) みのりを聞く会
二九日 (月) 斎藤保宅 三回忌

お知らせ

任期満了に伴い、左記の四名の方が勝林寺総代をご勇退されました。代議員会の席上、長年のご苦労に対しましていただきました。ありがとうございました。これからも、よろしくお願いいたします。

二月 勝林寺 予定

一日 (木) 勝林寺 仏婦評議員会
四日 (木) 出石組 三役会
六日 (土) 勝林寺 仏壯総会

どうぞよろしくお願ひいたします。

責任役員 中島 武志様
総代会長 永井 孝一郎様
総代田中 重雄様 (栗尾)
総代稻葉 保夫様
総代足立 中嶋 英樹様
代田中 重雄様 (上小田)
代足立 幸夫様

*太字の三名の方が新任

(敬称略)

お願い



別添えのお便りでお知らせしましたように、本山では、ご門主様がお代りになりましたことを記念して、本年十月から明年五月までの期間、伝灯奉告法事が當まれることとなりました。大変うれしいことでございます。

つきましては、勝林寺では、ご門徒の皆様に記念懇意をお願いしてお納めすることが、総代会より提案され代議員会で承認されました。ご苦

労をおかけしますこと大変心苦しく思いますが、

ご理解、ご協力ををお願いいたします。納付時期

は秋ごろ、金額は経常費一年分です。時期が参

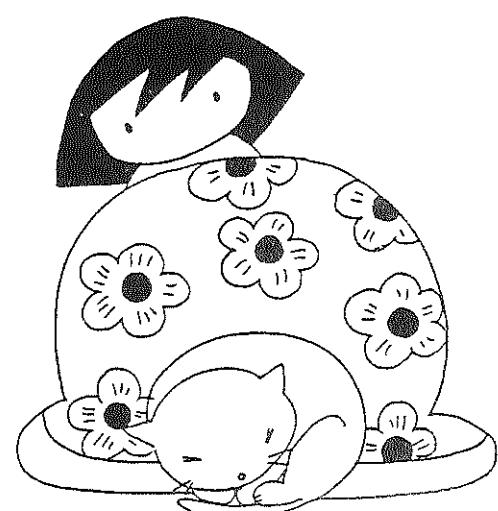
りましたら、代議員様を通じて、お知らせいた

します。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



葬儀

上小田 田中秀子様 六十一歳



お釈迦様

なにしろ大昔のことですから、お釈迦様の生い立ちの細かなことははつきりとわかりません。しかし、当時の人は、お釈迦様をお慕いする気持ちから、いろいろの物語にして、後々言い伝えました。こうしてできた物語を「ジャータ力（前生譚）」と言います。それによつてあらかた成人までのお釈迦様（ゴータマ・シッタルタ）のことをたどつてみます。

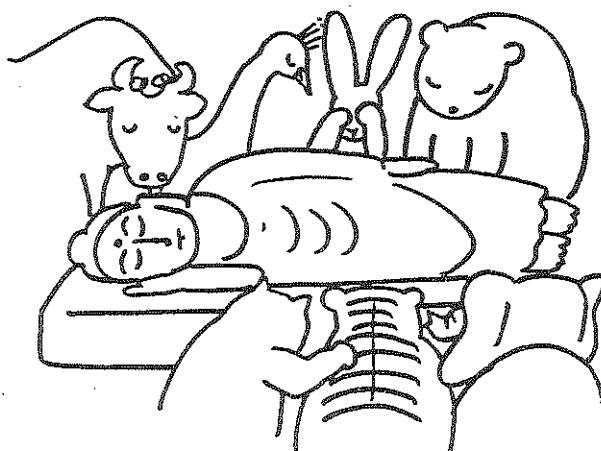
母マヤ夫人は、夫（淨飯王）との間に子どもを身ごもると、当時の慣習に従つて、生家に帰ろうとしました。途中ルンビニという花園を通りかかった時、道端に咲いていた優曇華の花を目にし、あまりの美しさに背伸びしてその枝を折ろうとしました。そのとき急に産氣づき、母の脇の下から産まれ出たのがシッタルタ王子でした。この出生を喜びお祝いして、空から甘露の雨が降り注いだといわれています。産まれ出したその王子は、天と地を指さし、「天上天下唯我独尊」（この世界に私は眞実を伝えに産まれてきた）とおっしゃつたそうです。五月八日、お釈迦様のお誕生日には、白い象の上に花御堂、その中に誕生仏、甘茶を注いでお祝いするのは、このお話を起因しています。

十歳の頃に「四門出遊（しもんしつゆう）」の話があります。王子の住む城には、東西南北に四つの門がありました。彼は、その四つの門を出るたびに、老人、病人、葬式（死人）、沙門（悟りを求める修行者）と出会い、人生無常とその克服をおもいました。そして、ついに成人になつたある日、チンナというお供を一人連れて「出家」して苦行の旅に出ました。

以来ヒマラヤなどの山深く指導者を求め、悟りの道を探して修行の旅に専心しました。約十年、シッタルタは、体を削る苦行の限界を感じ、以後、沈思默考、瞑想の修行に入ります。ガンジス河の支流ニレンゼン川で身を洗い、村の乙女、スジャータの捧げるヨーグルトの供養をいたとき、心身爽快のうちに、河畔の大きな菩提樹の下に「金剛座」を設けて座り、瞑想に入りました。

十二月八日の暁、夜明けの明星のきらめく中、人の世の真理を悟り「ほとけ」の道を悟りました。しばらくして、かつてともに修行していた

七人の友人がお釈迦様のところにやつてきて、教えを乞いました。それに応えてお釈迦様が初めて仏教を説いてきかせました。「初転法輪」といいます。なにを説いたかというと、四苦八苦を滅する方法を説いたもので、「四諦八正道（したいはつしうどう）」といいます。四諦の「諦」とは、明らかに見る（さとる）ということです。一つ目、苦諦とは、人生は苦であることを明らかに見る。二つ目、集諦とは、苦の原因を明らかに見る。三つ目、滅諦とは、苦の根を滅する道（心の持ち方）を明らかに見る。四つ目、道諦とは、苦の道程を明らかに見る。ということです。そして、苦を滅する道は、正しく物事を見る（正見）・正しく考える（正思）・正しく語る（正語）・正しく行為する（正行）・正しく生活する（正命）・正しく努力する（正精進）・正しく念じる（正念）・正しく心を決定させる（正定）以上八つをお示しになり、これを八正道といいます。



(文責 前住職)

卷之三

「無量光明士」とは、どいかに光があふれている世界があるといふのではなく、物事がありのままに見いだせるあり方をいふのでしよう。たくさんの方が別々にあるのではなく、そのはたらきを、清浄であり、歡喜でもあり、智慧でもあるといふように十二の面から表現したのです。清浄な光といふのはなく、遇えたものを清浄にさせる、歡喜をさせる光といふことでしょう。モノではなくはたらきです。それは私の状態ではなくあり方を変えるはたらき、力なのです。みひかりのはたらきのつまにあつて、病の身を納得して引き受け、譲るところを示してくださった先人に導かれ人生を見直し、生きとじこくるものすべてと出違い直し、自分の真宗の学びを再確認する。そんな日々をしていただけたことが有り難い」とです。

隣保でお付き合いさせていただ
いていた方が八〇歳でお亡くな
りになり、通夜にお参りさせてい
ただきました。式の最後に喪主で
ある息子さんが、「亡くなられたお
父様の晩年についてこんなお話
をされました。お父様は、六年前
から、認知症とパーキンソン病を発症され、少
しづつ衰えていかれたのだそうです。まだ、病
が初期のころ、認知症が疑われるお父様が、病
院で検査を受けられました。帰宅されたお父様
は、心配する家族や知人を前にして「みなさん、
私は、晴れて認知症の試験に合格いたしました
た!」と本当にうれしそうに報告されたそうで
す。そして、「老いることでも、病むことも、認知
症になることも、楽しいのです」とおっしゃ
り、日々、老いることや病むことを心から楽し
んで死を迎えたそうです。そう報告される
息子さんも、常に笑顔で、お父様と過ごされた
日々をいとおしそうに話されました。お父様も
息子さんも日頃からよく知っていますので、こ
のお話が決して大げさでも無理をしておられる
のでもないことは、容易に想像がつき、ついつ
いわたしも笑顔になってしまいました。さらに、
あいさつは、「次男さん、三男さん、お孫さんと
なりたいです。」という言葉であいさつを締め
続き、最後にマイクを持たれたお孫さんは、「ぼ
くもこんなじじい(愛情を込めて)こう言われた
くなりました。」といふ言葉であいさつを締め
くくられました。いつも、些細なことでも、と
にかくよく笑われたというお父様は、間違いな
く、涙を流して大笑いして、喜ばれたことだと
思いました。ほんとうにうらやましく、お手本に
したい生き方だと思いました。

隣保でお付き合いさせていただきました。お父様が八〇歳でお亡くなりになりました。お父様は、六年前から、認知症とパーキンソン病を発症され、少しづつ衰えていかれたのだそうです。まだ、病院で検査を受けられました。帰宅されたお父様は、心配する家族や知人を前にして「みなさん、が初期のころ、認知症が疑われるお父様が、私は、晴れて認知症の試験に合格いたしました！」と本当にうれしそうに報告されたそうです。そして、「老いること、病むことも、認知症になることも、楽しいものです」とおっしゃり、日々、老いることや病むことを心から楽しんで死を迎えたのです。そう報告される息子さんも、常に笑顔で、お父様と過ごされた日々をいとおしそうに話されました。お父様も息子さんも日頃からよく知っていますので、このお話を決して大げさでも無理をしておられるのでもないことは、容易に想像がつき、ついついわたしも笑顔になつてしましました。さらに、あいさつは、次男さん、三男さん、お孫さんと続き、最後にマイクを持たれたお孫さんは、「ぼくもこんな感じ（愛情を込めてこう言われた）になりたいです。」という言葉であいさつを締めくくられました。いつも、些細なことでも、とにかくよく笑われたというお父様は、間違いなく、涙を流して大笑いして、喜ばれたことだと思います。ほんとうにうらやましく、お手本にしたい生き方だと思いました。

老いることからも病むことからも逃げることばかり考えて、それらに絡み取られると、ただただ悲観して絶望してしまった私たちです。しかし、それでは、せつかくいたいでいる命の一一番の盛りあがりであるクライマックスを無駄にしてしまい、もつたいないことですものね。老いてこそ病んでこそ、「楽しみ」があることを教えていただきました。

式の後、棺の中のお父様と対面させていただきました。私はお元気だった頃を思い出し「瘦せられたなあ」と思ったのですが、実は、「本人は「とても精悍な面構えになつたでしよう」と得意顔だったのでしょうかね。（文責坊守）